

日韓レーザ計測シンポジウム 開催報告

第2回 2010年9月20日 パシフィコ横浜

第3回 2011年10月28日 イルサンKINTEX (韓国)

本シンポジウムは、2009年7月に韓国のソウル市立大学で開催した第1回に続いて、2010年はG空間 EXPO2010の開催に合わせ9月20日に横浜パシフィコで行われました。22人の韓国団が来日し、休日にも関わらず、午前は定員(100人)オーバーになるほどの参加者があり、午後もほぼ満席となり、参加者は延べ200名を超え盛況のうちに幕をおろしました。

また、第3回が、2011年10月28日に、韓国のイルサン(一山)で SmartKorea (2011 デジタル国土 Expo) の 10th Geomatics Forum のプログラムとして行われました。会場の KINTEX はソウル市内より地下鉄で約40分、車で30分という開発中のテクノタウン大化にあり、SmartKorea 以外に4つの展示会が開催されていましたが、交通の便などからシンポジウムの来場者数は前年を下回りました。

●第2回 2010年9月20日 パシフィコ横浜

岡部篤行測技協会会長及び Kim Wonik 大韓測量協会会長の挨拶により開会し、午前は日韓で活躍している研究者に基調講演をしていただきました。仁荷大学の Cho Woosug 教授が韓国における航空レーザ測量を含めた空間情報データの整備政策について発表し、日本・欧州・アメリカの作業方法の良いところを統合して作業規程を策定しているとの説明がありました。日本側の基調講演は独立行政法人森林総合研究所の平田泰雅室長が、最新の LiDAR を用いた森林調査への活用について発表されました。平田先生は、地球温暖化対策のため数多くの海外会議参加や現地視察をされており、世界の森林分野での航空レーザ計測の活用例が紹介されました。特別講演として、ドイツにおける3次元都市モデルへの航空レーザ測量活用を、Virtualcitysystems 社の Laurence 氏が講演しました。単に見るだけの3次元都市モデルでなく、太陽光パネル設置による CO₂ 削減量の算出、大気汚染の拡散シミュレーションなどの活用例が紹介されました。午前の講演は通訳なしの英語発表だったにも関わらず、立ち見が出るほど参加者の関心の大きさが窺われました。

午後は、日韓両国の航空レーザ計測に携わる民間会社(日本5件、韓国3件)から発表がありました。日本の朝日航洋(株)、国際航業(株)、中日本航空(株)が航空レーザの応用技術について、アジア航測(株)、(株)パスコがモバイルレーザに関する発表をしました。韓国は三亜航測、空間情報技術がレーザ計測等を用いた空間データ構築、機器メーカーの EOsystems が地上レーザ開発について発表しました。

日本でも近年、航空レーザ測量が実用化され、地形データ(DEM)取得のほか基盤地図情報の精密標高データ整備が進められ、航空レーザがカバーするエリアは国土の半分近くまでになっています。一方、今回の発表によれば、韓国では空間情報整備へ約2000億 Won(約150億円)の公共事業投資と官学産からなるコンソーシアム体制によって全土の空間データ整備を4年間で行う。加えてオルソ整備を2年毎に、レーザ測量は10年間隔で実施するとしています(図1参照)。

韓国は日本の公共測量の作業方法などを手本にしつつも、国の計画・政策については日本よりも積極的であると感じました。一方、民間企業でのレーザ計測・活用技術は、日本の発表の方が中身が濃く、一日の長があると思いました。

※第2回日韓レーザ計測シンポジウムの要旨集は測技協 HP に公開しています <http://www.sokugikyoo.or.jp>



第2回 日韓レーザシンポジウム参加者

●第3回 2011年10月28日 KINTEX (韓国イルサン)

これまでのシンポジウムの韓国側の窓口であるソウル市立大学の Choi Yoon-Soo 教授の司会のもと、主催団体である韓国測量学会、大韓測量協会の会長、測技協の谷岡事務局長の挨拶で開会しました。基調講演は日韓ともに行政機関による講演で、韓国は国土海洋部の Kwang 情報企画課長が空間情報の法整備・GIS 推進・プラットフォームなどの国家戦略について、日本は国土地理院の永山防災企画官が「東日本大震災に関する日本国土地理院の対応」のタイトルで講演しました。この講演は韓国からのリクエストであり、報道の表面には出なかった初動対応、成果についての部分に韓国側は大変興味を持っていたようです。

午後は両国交互に5件ずつの技術発表が行われ、日本側は MMS、航空レーザ計測、空中写真測量を用いた東日本大震災関連、ヘリレーザによる3D都市モデル作成法、航空レーザによる古墳調査についての発表を行いました。韓国側は第2回のような空間情報の整備計画・戦略という企画的なプレゼンテーションでなく、航空レーザの QA/QC、ハイパースペクトル、斜めカメラによる3D都市モデル、2011年のソウル大洪水調査など多岐分野の具体的な成果発表だったので興味深く聴講できました。

韓国は地震や火山噴火などの自然災害が少ない国であり、台風も日本に比べれば少なく、洪水も多くありません。日本とは異なる国土の自然条件から、自然災害に対する防災対策という用語は韓国側からは出てきませんでしたが、歴史の古い韓国ということもあり、質疑応答では古墳調査といった考古学的な文化財調査に話が集中しました。

第3回も多数の発表が行われましたが、日本語の韓国語通訳はあったものの、韓国語の発表は日本語に通訳されなかったため、パワーポイントより類推しなければなりません。今後もこのシンポジウムを継続していくには、技術発表を全て英語に統一することや、テーマを絞って発表本数を減らすなどの工夫が必要だと思えます。



第3回 日韓レーザシンポジウム参加者